

い

いろはもみじ

ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

わが国の紅葉を代表する木。葉は対生し、切れ込みが「いろはにほへと」と7つ数えられることから名が付けられたともいわれる。別名タカオカエデ。

実(翼果)は水平に開く。

用途:庭木、家具、寄木細工等

ろ

ろくろぎ

(正名 えごのき)

エゴノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5~6月、若枝の先端に白い清楚な花が下向きに咲く。

材を傘のロクロ(唐傘の先端)に使用したことから「ロクロ木」。

実は昔は石鹼の代用にした。

用途:庭木、床柱、玩具材等

は

はくうんぼく

エゴノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5～6月、枝先に白い花が満開になった様子を「白雲」に見立てて名付けられた。

葉は秋に黄色く色づき美しい。東北地方では「ハビロ」と呼ばれ、将棋の駒の材料になる。

用途：庭木、公園樹、器具材等

に

にわとこ

ガマズミ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

葉は羽状複葉で対生。4～5月に淡黄色の小さな花が多数咲き、梅雨時に実が赤く熟す。

枝や幹の黒焼きが骨折などの薬になると言われ「接骨木」ともいう。冬芽は大きく目立つ。

用途：庭木、薬用、細工物等



ほおのき

モクレン科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

葉は長さ30cm以上になり、
朴葉寿司など食品を包むのに
使われる。

5～6月、枝先に芳香のある
大きな花が咲く。果実は集合果
で大きい。

用途：彫刻、器具、下駄等



へいたまのき

(正名 あぶらちゃん)

クスノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

3～4月、葉の出る前に薄黄
色の小さな花が咲き、10～11
月に実が褐色に熟す。実や皮か
ら油が取れる。「へいたまのき」
は栃木県塩谷地方の呼び名。
用途：杖、輪かんじき、灯明等



とーのき

(正名 くさぎ)

シソ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

枝葉に強い臭気がある。8～9月に雄しべが長く突き出た白い花が咲く。藍色に熟す実は草木染に使われる。

「とーのき」は仙台、伊豆や秋田、茨城など複数県での呼び名。

用途：庭木等



ちどりのき

ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

葉は鋭い鋸歯がありサワシバやクマシデに似ているが、対生でカエデの仲間である。

4月頃淡緑色の小さな花が咲く。実(翼果)はほぼ直角に開く。

枯葉は冬の間も長く残る。

用途：器具材等



りんぼく

(正名 ひいらぎ)

モクセイ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

若木の葉には、先端が刺状になった大型の歯牙がある。

11～12月に白い花が葉の付け根に集まって咲く。

「りんぼく」は和歌山県東牟婁地方の呼び名。

用途：ソロバン玉、櫛、印鑑等



ぬるで

ウルシ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

8～9月、黄白色の小さい花が多数咲く。葉は羽状複葉で、中軸に翼があるのが特徴。

秋の紅葉は美しい。幹を傷つけて取る白い樹液を器具などに「塗る」のでヌルデ。

用途：塗料、染料(虫こぶ)等



るりみのうしころし

(正名 さわふたぎ)

ハイノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5～6月、白い小さな花が多数咲く。実は9～11月に光沢のある藍色に熟し目立つ。

「瑠璃実の牛殺し」は、材が硬く牛の鼻輪に使われたため。

用途：細工物、道具の柄、印判等



おおもみじ

ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

イロハモミジの変種で、葉も実も大きい。細かく揃った鋸歯が特徴。切れ込みは7つ。

別名ヒロハモミジ。

紅葉は美しく、葉が大きいので見応えがある。

用途：庭木、公園樹、盆栽等



わせび

(正名 あせび)

ツツジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

3～5月、壺状の白い花が多数垂れ下がって咲く。実は上向きにつく。葉や花に毒があり漢字名は「馬酔木」。「わせび」は静岡県地方の呼び名。

用途：床柱、庭木等



かや

イチイ科



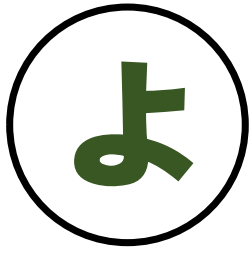
写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

雌雄異株で、4～5月に花(雄花は黄色、雌花は緑色)が咲く。

葉先は鋭く尖り触ると痛い。

果実(種子)は翌年の10月に熟し、油が採れる。炒ると食用にもなる。

用途：建築、彫刻、高級碁盤等



よぐそみねばり

(正名 みずめ)

カバノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、若葉とともに穂状の雄花、円柱状の雌花が咲く。

樹液や葉に強いサロメチール臭がある。「よぐそみねばり」は栃木、埼玉県地方の呼び名。

用途：建築、家具、器具材等



たまあじさい

アジサイ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

つぼみは大きく玉のような形をしている。8～9月、薄紫色の小さな花が多数咲く。

葉は両面が硬い毛で覆われざらざらする。以前は葉たばこの代用品として使われた。

用途：庭木等



れんげつつじ

ツツジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～6月、枝先に朱橙色の花が2～8個咲く。高原に多く群生し、高さ1～2mになる。

葉や花に有毒成分を含み、昔は便所に入れてウジ殺しに使用した。

用途：庭木、花材等



そろ

(正名 あかしで)

カバノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、長く垂れ下がった花序に雄花が咲く。赤色の新芽や紅葉が美しい。「そろ」は山梨、静岡、青森、岩手、秋田県地方の呼び名。

用途：庭木、盆栽、器具材等



つのはしばみ

カバノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

3～4月、葉のでる前に紅色の雌花と垂れ下がった雄花が咲く。果実は毛の多い総苞に包まれ角のような形をしている。実は食べられる。

葉は重鋸歯で、先が急に尖る。
用途：庭木等



ねむのき

マメ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

6～7月、枝先に10～20個の淡紅色の花がつき、夕方開く。葉は、長さ20～30cmの大型の偶数2回羽状複葉で、夜になると眠るように閉じるのでこの名がある。

用途：庭木、公園樹、器具材等

な

ながばがし

(正名 しらかし)

ブナ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

常緑の葉は細長く先端が尖る。5月頃、長く垂れさがる雄花と枝先に直立する雌花が咲く。果実はドングリ。

「ながばがし」は千葉県(清澄山)での呼び名。

用途:器具材、街路樹、庭木等

ら

らおぎ

(正名 ハナイカダ)

ハナイカダ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5~6月、淡緑色の小さな花が葉の表面中央に咲く。実は初秋に黒く熟す。花が筏に乗った船頭に見えるのでこの名がついた。「らおぎ」は三重県地方の呼び名。

用途:庭木、花材、山菜等



むらさきしきぶ

シソ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

6～7月、淡紫色の小さな花を多数つけ、秋には直径3～4mmの紫色の実をつける。

名前は、実の美しさを紫式部に例えてつけられたといわれる。

用途：庭木、器具材、柄、杖等



うわみずざくら

バラ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、葉が開いてから本年枝の先に6～8cmの白い総状の花が咲く。花序の下に数枚の葉がつく。実は黄赤色から黒く熟す。蕾や若い実を塩漬けにして利用する地方もある。

用途：彫刻、器具材等



いたやかえで

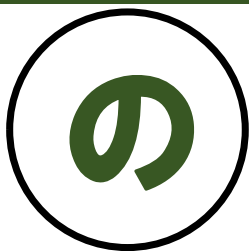
ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

カエデの中では大木になる種類で、高さ15～20mになる。葉は切れ込みが浅く、秋に美しく黄葉する。葉がよく茂り、板屋根のように雨が漏らないことからこの名がついた。

用途：建築、家具、スキー板等



のしで

(正名 いぬしで)

カバノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月に黄褐色の雄花が紐状に垂れ下がる。樹皮はなめらかで白っぽい縦縞模様が目立つ。

「のしで」は山口県佐波地方、島根県鹿足地方の呼び名。

用途：公園樹、庭木、盆栽等



おおうらじろのき

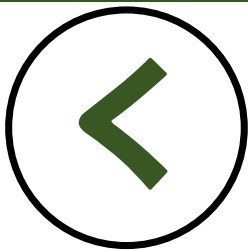
バラ科



写真：広島県緑化センターHP

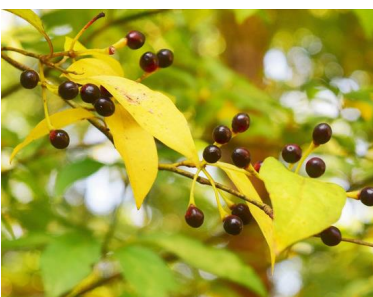
5月頃、短枝の先に白色の花が咲く。葉の裏面には綿毛が密生する。実は2～3cmの球状で、秋に黄緑色から紅色に熟し食べられる。樹皮から黄色の染料が採れる。

用途：器具材、家具材等



くろもじ

クスノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

花は雌雄別株で、4月頃、葉の展開と同時に黄緑色の小さな花が集まって咲く。

材は独特の香りがあり高級爪楊枝に使われる。果実は9～10月に黒色に熟す。

用途：庭木、爪楊枝、香油等



やまぼうし

ミズキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

6～7月、花弁のように見える白い総苞片が目立つ花が咲く。葉は対生で枝先に集まってつく。葉脈が目立つ。

実は集合果で、10月頃赤く熟し食べられる。

用途：庭木、器具材等



まるばあおだも

モクセイ科



4～5月、白い小さな花が多数咲き新緑に映えて美しい。葉は対生で奇数羽状複葉。

秋には細長く翼のある実が紫色に熟す。冬芽は微細な粉状毛に覆われる。

用途：建築、家具、バット等

け

けやき ニレ科



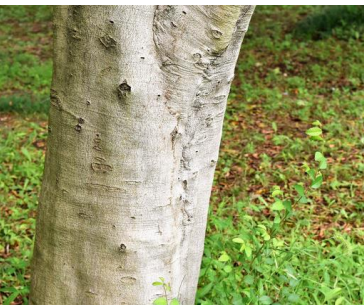
写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

日本の代表的な広葉樹の一つで、高さ20～25mになる。葉は互生で縁に鋭い鋸歯がある。樹皮は老木になると鱗片状に剥がれる。

街路樹や屋敷林として植栽。
用途：社寺建築、漆器の生地等

ふ

ぶな ブナ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

わが国の温帯林の代表樹種。幹がイヌブナより白いのでシロブナとも呼ばれる。葉は互生し縁は波状、葉脈は7～11本。

実は突起のある硬い殻に包まれ、中に2個ずつ入る。

用途：建築、器具、家具、盆栽等



こなら

ブナ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、穂状の雄花と葉柄のつけ根に小さな雌花が咲く。実のドングリは動物の大事な食糧となる。

雑木林を代表する樹種で、しいたけ原木や薪炭材になる。
用途: 建築、家具、器具材等



えのき

アサ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、淡黄褐色の小さな花が咲き、実は10月頃オレンジ色となり野鳥が好んで食べる。葉は互生で、縁に波状の浅い鋸歯がある。

昔は一里塚によく植えられた。
用途: 器具材、庭木、公園樹等

て

ていかかずら

キョウチクトウ科



常緑のつる植物で、茎に出る付着根で木や岩場をはい登る。

5～6月、芳香のある白い花が咲く。種は細長く、先端に真っ白な冠毛があり風で遠くに飛ぶ。

用途:庭木、盆栽等

あ

あらかし

ブナ科



4～5月、垂れ下がる花序に雄花、新しい枝の上部に小さな雌花が咲く。ドングリの殻斗は縞模様。

葉は互生し、上半分に大きな鋸歯がある。裏面は粉白色。

用途:建築、器具材、公園樹等



さわしば

カバノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

4～5月、緑黄色の花が垂れ下がって咲く。花後長さ4～8cmの果穂をつける。

葉は互生し、縁に細かい鋸歯がある。水分の多い肥えた谷沿いに自生する。

用途：床柱、器具材、薪炭等



きぶし

キブシ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

3～4月、葉の出る前に房状の小さな花が咲く。雌雄異株。実は初め緑色、熟すと黄色になる。粉にして染物に利用される。

葉は先端が長くとがり、縁に深い鋸歯がある。

用途：庭木、花材、楊子等



ゆずりは

ユズリハ科

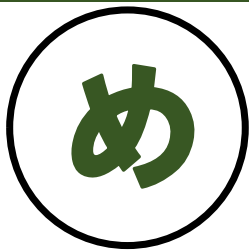


写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

若葉(子)が伸びてから古葉(親)が落ちるので「譲り葉」。正月飾りに使われる。

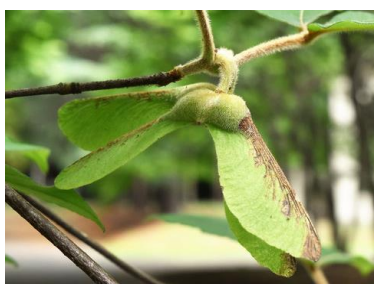
5～6月、花弁と萼のない小さな花が咲き、実は10～11月に藍黒色になる。雌雄異株。

用途：庭木、公園樹等



めぐすりのき

ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

葉は3枚の小葉が手のひら状について対生する。秋の紅葉は群を抜いて美しい。

5月頃、枝先に小さな花が咲き、秋に大型で黄褐色の毛が密生した実をつける。

用途：建築材、器具材、床柱等



みずき

ミズキ科

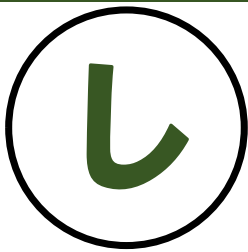


写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5～6月、白い花をたくさんつけ、秋には黒い実がなる。

枝を四方へ車輪状に広げ、階段状の独特な樹形になる。春先に枝を切ると水が滴り落ちるので「水木」。

用途:こけし、食器類、街路樹等



しろだも

クスノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

10～11月、黄褐色の花が咲き、実は翌年の10～11月に赤くなるため、花と実が同時に見られる。

葉の裏は白く毛がある。種子からロウソク用の蠟をとった。

用途:庭木、防風垣、器具材等



えんこうかえで

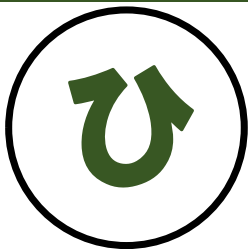
ムクロジ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

イタヤカエデの変種で、葉は対生し、手のひら状に5～7つ深く切れ込む。テナガザルの手を思わせることから「猿猴楓」。材は硬く、材木としての用途も多い。

用途：建築、家具、器具材等



ひのき

ヒノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

スギの次に多く植林されている。材は、木目が美しく香りが良く腐りにくい。古くから社寺仏閣、仏像に用いられてきた。

葉の裏面の白い部分(気孔)はY字形に見える(サワラはX)。

用途：建築、器具、楽器、彫刻等



もみ

マツ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

5月頃、前年枝に毛虫のような雄花が群がって咲く。球果は10～15cmの円柱形になり灰褐緑色に熟す。

葉先は2裂する。わが国の固有種。クリスマスツリー。

用途：建築、梱包材、公園樹等



せんのき

(正名 はりぎり)

ウコギ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

ヤツデに似た葉が枝先に集まって互生し、枝には太イトゲが多い。樹皮は暗褐色で縦に大きく裂け目がある。

「せんのき」は北海道、東北、北陸、北関東地方の呼び名。

用途：建築、家具材、公園樹等



すぎ

ヒノキ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

最も多く植林されている林業用樹種。古くから社寺境内などにも植えられたわが国固有種。

長寿の木とも言われ、屋久杉には樹齢3千年を超えるものもある。

用途：建築、器具、楽器、彫刻等



んまべのき

(正名 うばめがし)

ブナ科



写真：庭木図鑑 植木ペディアHP

葉は革質で表面にはやや光沢があり、縁には波状の鋸歯がある。新芽や若葉は茶色味を帯びる。

「んまべのき」は鹿児島県こしき島地方の呼び名。

用途：庭木、薪炭(備長炭)等